

SSC
 埼玉県障害者社会参加 推進
センターだより
 令和3年9月30日 130号

編集
 埼玉県障害者社会参加推進センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 県障害者交流センター内
 TEL 048-825-0707
 FAX 048-825-3070
 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp
 HPアドレス http://saitama-shokyo.org/info/
 発行 NPO法人埼玉障害者センター
 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1
 頒行 一部100円(会費に含まれます)
 日 10日・20日・30日

はじめに

第16回夏季パラリンピック東京大会が終わった。デルタ株によるコロナ感染が拡大するなか、さらなる感染拡大につながるこ
 とへの不安で、開催への賛否両論がある中で、開催ではあった。共同通信社の全国電話世論調査では、開催されて「よかった」と回答した人の割合は69・8%であった。また、東京パラリンピックを契機に、「障害者との共生が深まると思いますか」という問いには「深まると思う」が67・1%に上った。感動の余韻が残る直後の調査なので高い数値になっているが、今後の一人一人の意識変容と実践が重要

一緒に多様性を認め合う社会をめざして

パラアスリートのひたむきな活躍の姿

特定非営利活動法人埼玉県障害者協議会 代表理事

田中 はじめ

であることは言うまでもない。

総メダル数は51と史上最多であった2004年のアテネ大会の52個に迫った。22競技539種の種目で、いろいろな挫折や苦悩を乗り越えて活躍するアスリート
 の生き様やその競技のレベルの高さは輝きを放っていた。世界から4403人が参加し、スポーツマンシップを通じインクルーシブな社会の実現を目指した大会であった。



1 パラスポーツとは

「パラスポーツ」からイメージするのは、4年に1度、オリンピックの後に行われるパラリンピックなど、障害者のスポーツ競技と
 思っている方が多いのではないかと思う。しかし、今では障害者が行うスポーツ全般を指す言葉になっている。「パラスポーツ」は今健常者も障害者も同じルールで対等に行うスポーツという広い意味を持つ言葉として用いられるようになった。





パラアスリートの 残した印象的な言葉

大会期間中にパラアスリートが発した印象に残った言葉を紹介したい。

「失ったものを考えるのではなく、残されたものを最大限考える」「自分らしさを追求する」「人間の可能性、人生の次のページに進みたい」「一生懸命やっている姿は、美しいと思いたい」「我々には翼がある、精一杯飛ばしたい」

「世界の人口の15%は何らかの障害を持っている（およそ12億人）」「勝ち負けは関係ない、メダルも関係ない」「多様性の価値を伝えたい、多様な価値に輝きがある」まだまだたくさんあると思うが、書き留めた言葉を紹介した。

メダルを獲得したアスリートだけでなく、残念ながらメダルを取れなかったアスリートに

もそれぞれのこれまでの苦難を乗り越えて「いま」があり、国籍、勝敗を超えて、互いにリスペクトする姿は胸を熱くするものがあつた。パラリンピックの精神、スポーツの力を見たような気がする。



パラスポーツのすそ野拡大 身近なスポーツ施設でパラ スポーツに親しむ機会を

スポーツ庁の調査によると、

週1回以上スポーツをする成人障害者の割合を40%程度にする
と掲げるが、20年度調査では約25%にとどまるといふ。「施設がバリアフリーではない」「過去にパラスポーツを受け入れたことがない」「車いす競技が行われると体育館の床に傷がつくのではないか」などの理由からパラスポーツの受け入れに不安を感じている施設も少なくないと思う。

パラスポーツの更なる普及の

ため、各施設におけるパラスポーツを受け入れる参考にするため、埼玉県は平成31年1月にスポーツ施設向け障害者スポーツ受け入れマニュアルを発行した。内容は地域のスポーツ施設を利用するに時の各障害別の注意ポイント、駐車場、エントランス、更衣室、トイレなどの共用施設の利用、競技用車いすの体育館使用、障害者と健常者がともに楽しめるスポーツなどが掲載されている。

障害者差別解消法が平成28年4月に施行され、障害者に対する合理的配慮が求められるなか、身近な地域で日常的にパラスポーツを楽しめるスポーツ施設の確保とパラスポーツの専門的指導者の養成・確保をしていくことがすそ野を広げるうえで非常に重要である。

終わりに

（パラスポーツから共生社会へ）

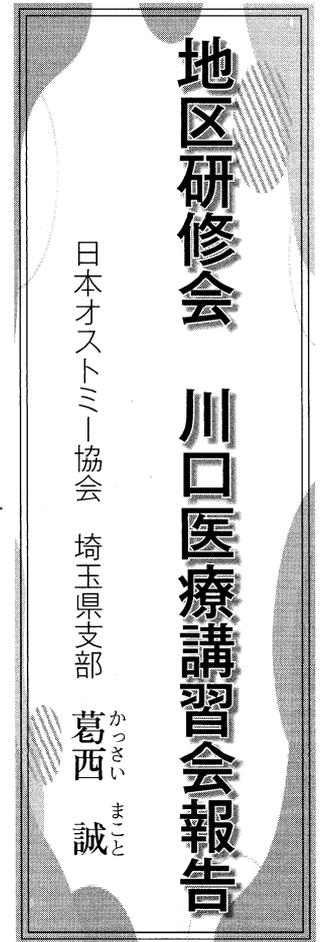
東京パラリンピックは中高年の活躍に感動と輝きがあつた。障害や世代、性別、国籍を超越して、一人ひとりの違いを認め合うこと大切さを感じた。オリパラ開催までには紆余曲折があつたが、オリパラの精神は「多様性と調和」である。

アスリートの活躍の姿から他を理解し、気づきの想像力とコミュニケーションの先に、誰もが普通に生きられることができ、社会が待っていることを信じて。



地区研修会 川口医療講習会報告

日本オストミー協会 埼玉県支部 葛西 誠かっさい まこと



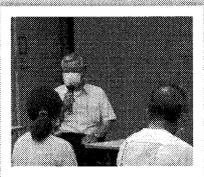
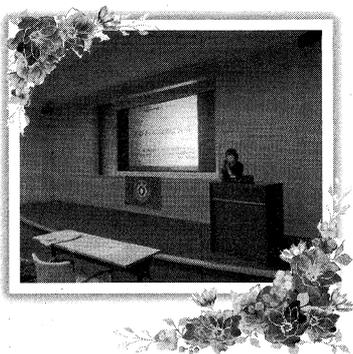
七月十一日(日)、川口市川口メディアセブンにて、日本オストミー協会埼玉支部の医療講習会を実施しました。テーマは、鳩ヶ谷訪問看護ステーション 皮膚・排泄ケア認定看護師 持田智江美先生による「オストメイトの食事について」と、三郷中央総合病院 ケア支援室・皮膚・排泄ケア認定看護師 柴田智恵子先生による、「ストーマケア ～退院後も笑顔で～」の講演です。

コロナウイルスまん延防止等重点措置、極暑という二重苦の中、県支部としては半年振りの講習会で、三十八名の方が、参加されました。

共催者である埼玉県障害者協議会代表理事田中一様から、挨拶を戴きました。

「コロナ疲れ、見えない不安と恐怖のなか、外の空気を吸って、人と話をして、それが幸せな人生、何も制限されない日々の幸せを感じます。

オストミー協会の皆様も普段から大変な思いをされているのを聞き及び、今月号会報で施設等に入所の際、ストーマ装具給付停止の自治体に要望書を提出する活動を拝見し

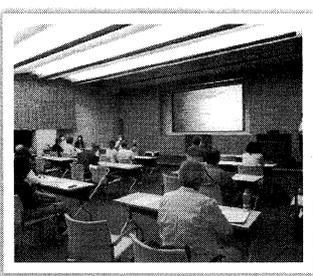


ました。装具は身体の一部ではないが、前に進めない必需品なので、施設に入ろうと日々の生活の用具として自治体が支給するのは当然のことだと思いません。」

今日は二つのテーマでの講演を皆さんと一緒に楽しみに聴きたいと思えます。

オストメイトの食事はストーマがあっても、特に食事が制限されることはありません。他の病気(高血圧、糖尿、腎不全、クローン病など)で制限されていない限り、手術前と同じ食事が楽しめます。ただし、食品の種類や食べる量によって、ストーマから出るガス(おなら)の量や臭い、便の形などが変わります。バランスのよい食事を心がける必要があります。食事は、人生を送るうえでとても重要であり、オストメイトにとって朗報なのは、ストーマがおいしい料理を楽しむ妨げにならないという事、決まった食事のルール

はないということです。ストーマケアは、退院後も笑顔です。ストーマと共に生きていくことを受け入れるには、個人差もあり時間がかかります。ストーマも大切なからだの一部であり、一時的・永久的な造設でも大切な生命を守ってくれる大切なのです。



コロナ禍でもひとりじゃない！みんなとつながるツールを使いこなし、ストーマ外来の利用、自分自身・家族の高齢化には訪問看護の利用などうまく利用することです。

当支部もコロナ禍、オストメイトのQOL(生活の質)の向上に役立てる活動に取り組んでいきたいと思えます。

学習会

「ZOOMを使って

はじめての手話を勉強しよう」

を開催しました

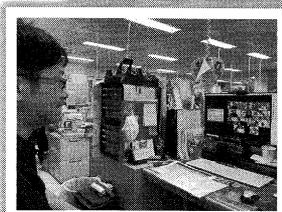
特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会 事務局

郷古 珠美

令和3年6月22日(火)、7月27日(火)、8月31日(火)の3回にわたり、令和3年度障害者社会参加推進センター事業生活訓練事業として学習会「ZOOMを使ってはじめての手話を勉強しよう!」を開催いたしました。

講師は埼玉県聴覚障害者協会事務局の岡野敏昭氏に依頼し、全3回のプログラムのうち、第1回目は「ZOOMのダウンロード・基礎知識・基本操作」を、第2回・第3回目は「ZOOMではじめての手話を勉強しよう①・②」のカリキュラムで行いました。

岡野先生は手話教室を多数指導する熟練の講師である上に、



指導してくださる 岡野敏昭氏

インターネットや機械関係に造詣が深い方です。聴覚障害者であるため助手の方の手話通訳を介して行われた学習会の中で、第1回目のZOOMの操作の授業では、スクリーンや資料等を使い、初めての操作に戸惑う人のサポートや、ZOOM経験者からの突っ込んだ質問にも、それぞれ丁寧に手厚く対応してく

れました。

後半2回目・3回目の学習会ではZOOMを利用して日常の挨拶や数字の教え方、自己紹介等、初歩の簡単な手話を勉強しました。ほとんどの参加者が手話初心者のため、はじめはみな遠慮がちな動きでしたが、岡野先生は表情豊かに根気よく何度も繰り返し指導してくださったので、学習会は終始明るく和やかな雰囲気が進みました。

今回の学習会は、気軽に参加できるような短時間の開催でしたし、途中、参加者の操作がうまくいかないなど小さなトラブルもありましたが、ZOOM開催のおかげで、緊急事態宣言発令中も学習会を継続できたので、この形式にして良かったと思われました。また、参加者の反応も好評で、手話を学ぶ楽しさが皆で共有できたと感じました。

今回だけの企画で終わらせず、今後も継続していく学習会にできればと願っています。

参加者の声

- ・とても分かり易かったし、覚えると楽しいです。忘れない様に手話を使いたいと思います。
- ・やってみる前は失敗したら、覚えられなかつたらと色々心配していましたが、根気よく何度も教えていただいたので楽しく学べました。
- ・普段から手話でコミュニケーションを取れたらと思っていましたので、とても良い機会でした。またトライしたいと思います。
- ・手話の基本を教えていただき良かったです。
- ・日常生活に必要なコミュニケーションを手話で取り入れられたらと思いますので、ZOOMと対面を組み合わせた勉強会を、年に何回か開催して欲しいです。
- ・ZOOMというものに初めて触れて操作に戸惑ってしまい、肝心の手話に苦戦しましたが、分かり易く丁寧に指導して下さって感謝しております。
- ・3回に分けて勉強会をする事によって集中して学べました。楽しい機会を与えてくださり、ありがとうございました。

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会の

活動状況について

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会事務局長

あおば 辰美 たつみ

埼玉県障害者スポーツ協会は、健康の維持・増進や社会参加の促進を通じて、全ての県民の生涯スポーツ振興への寄与を目的としています。

平成16年(2004年)埼玉県で開催された、第4回全国障害者スポーツ大会「彩の国まごころ大会」終了後に「埼玉県障害者スポーツ協会」として設立し、平成22年6月に一般社団法人となりました。以来、県障害者スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会への県選手団の派遣など障がい者のスポーツ活動の普及啓発、振興をおこなっています。

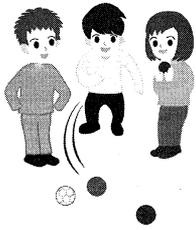
設立目的は、埼玉県における障がいのある人々が、生涯にわたって主体的かつ多様なスポーツ参加・活動が保障されるよう、その機会提供や環境整備を支援するとともに、地域に根ざした



当協会の事業内容として、

「ふれあいピック春季大会・秋季大会・球技大会」等のスポーツ大会の開催、全国障害者スポーツ大会への選手選考・大会派遣、さいたま市障害者スポーツレクリエーション教室、地域コーディネート事業(体験会・講演会・備品貸出)をおこなっています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの事業が縮小や延期・中止があり昨年度に引き続き思ったように事業運営ができていない状況です。

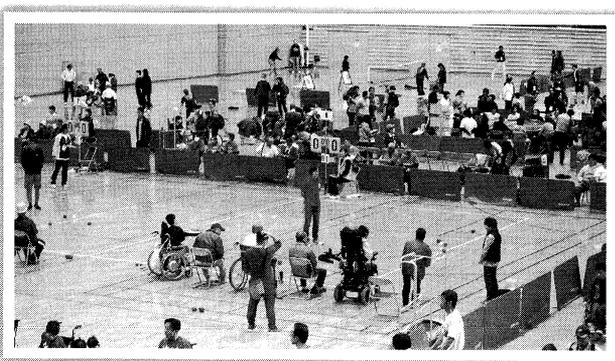
今年8月に開催された東京2020パラリンピック大会を契機に、県内の地域や企業・学校でのパラスポーツ体験会・講演会への協力依頼や県民からの「パラスポーツをやってみよう」という相談や問い合わせが増加



しています。

今後もスポーツを通じた共生社会の実現や、障がいの有無に関わらずスポーツが楽しめる環境づくりに取り組むことができ、社会形成とスポーツの日常化、健康で豊かな生活が送れる環境を皆様のご協力のもと実現していきたいと考えています。

一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束することを願うと共に、引き続き障がい者のスポーツ活動にご理解ご協力をお願いいたします。



【加盟団体活動紹介 第二十三回】

障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会

名称通り、「障害者の生活と権利」を守り、障害者関連施策の前進をめざす会であり、団体規模の大小とか、障害種別や障害程度、思想信条等の壁を超えて連帯している。

の発行管理団体としてSSC「副題30数団体」1か月に、10日、20日、30日に発行している」ので、各機関紙の発行調整を行っている。

設立年

1972 (昭和47) 年

目的

1972年の知事選に向けて大宮市民会館大ホールを会場に「埼玉県知事候補者に障害者政策を聞く集い」開催がきっかけとなり、県知事選後は、「県庁玄関にスロープを！」「県庁内に県民案内室を！」などの要求を掲げ、実現させながら、同年秋、障埼玉連の結成に至った。

会員数

82団体 (4500人)

活動紹介

会員対象
基本的に団体会員の集まりである。他に賛助会員 (団体・個人) 制度がある。

結成時から、基本的には、障害児者・家族に関わる要求実現をめざす運動を軸にした組織である。障害児者の権利と生活、保育・教育、保健・医療、労働・雇用、住宅・街づくり、スポーツ・文化、レクリエーションなど全方位に向けた運動をしている。

発行会報誌

SSC「埼玉障害者新聞」(月刊)、埼玉障害者センター発行の低料第3種郵便物 (SSC)

要求が集約し運動を進展させる形で養護学校づくり、街づくり等の要求が、さらに各分野の要求が広がり、養護学校卒業後の進路保障として障害者作業所づくり運動に発展し、放課後保

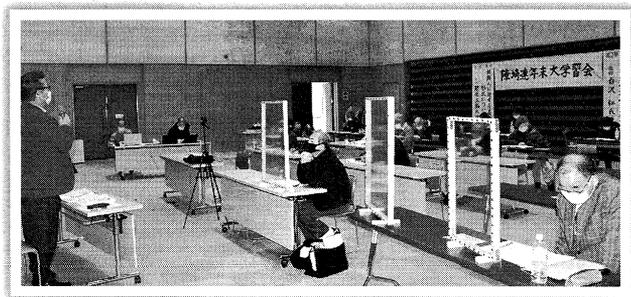
障として障害児学童保育の運動にも発展しました。

1980年から始まった埼玉障害者まつりは、国際障害者年を意識して、これまで交流のなかった障害者団体へ広く呼びかけることで、障害者団体の大同団結への大きな気運をつくって行った。また、地域でつくられた実行委員会がその後、障埼玉連の加盟組織 (市民の会) として加わったりもした。

行財政改革と称し、福祉削減を掲げた国の流れが浸透し始め、要求実現の運動が困難になってきた。それでも要求運動との関連で障害者関連施策は増えつつあるが制度の中身は極めて貧弱な内容になってきている。

確かに一定のところまでは頑張ってきたが、頭打ちである。これまでの運動を総括するとともに、要求の中身を深め、質の高い新しい要求運動が求められている。さらには、運動を支える層をさらに広げていくとともに、発展的に組織的に組織的若返りが大きな課題となっている。

でも文化・スポーツ等、進まない分野もあります。また1990年代頃からは、

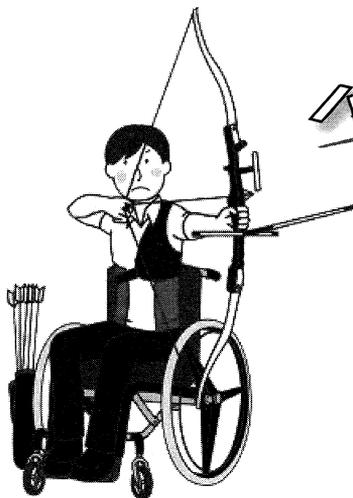


障害者と健常者がともに楽しめるパラスポーツ

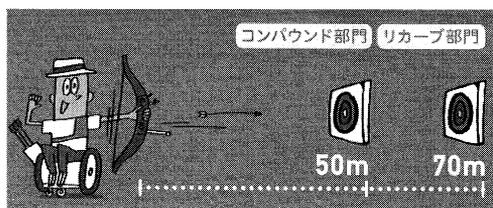
パラスポーツとは？

「パラスポーツ」からイメージするのは、4年に一度、オリンピックの後に行われるパラリンピックなど、障害者のスポーツ競技とされている方が多いのではないかと思います。しかし、今では障害者が行うスポーツ全般を指す言葉になっています。「パラスポーツ」は今健常者も障害者も同じルールで対等に行うスポーツという広い意味を持つ言葉として用いられるようになりました。

パラアーチェリーを紹介します



アーチェリーは、離れた的に向かって矢を放ち、その得点を競い合う競技です。パラリンピックのアーチェリーで使用する弓には、一般的なリカーブ（70m）と、先端に滑車がついて小さい力でも引くことのできるコンパウンド（50m）の2種類があります。



競技の概要

大会ではまず、72射（1射10点満点で最大720点）のランキングラウンドを行い、合計点数でランキングを決め、決勝トーナメントの組み合わせを決定します。パラリンピックなどの国際大会では、決勝トーナメントは1対1の対戦方式で競います。1射ごとに点数が表示されるので、観客にも両選手の得点の経過が分かりやすく、観客席からは大歓声が起こります。選手にとっては、より大きなプレッシャーがかかる競技方法で、メンタルの強さが重要になります。

クラス分け

アーチェリー競技にはいろいろな種類の障がいのある選手が参加し、その障がいのレベルも一人ひとり異なります。そこでパラリンピックのアーチェリーにおいては、世界アーチェリー連盟が、アーチェリーをするための運動機能によって、選手を3つのクラスに分けています。

◎W1クラス



車いす使用の四肢麻痺（頸椎損傷）。もしくはそれに相当する障がい。体幹が効かない。

◎W2クラス



車いす使用の対麻痺（胸・腰椎損傷）。もしくはそれに相当する障がい。

◎STクラス



立位もしくは、いすに座って競技する。

(公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 かんたん！アーチェリーガイドより引用)

お問合せ

埼玉県障害者協議会

TEL 048-825-0707 メール ssk080321@bz.plala.or.jp



今回は、パラダンスを紹介します

埼玉県内
障害者団体の
活動と交流拠点

「団体交流室」の入室団体を募集!



埼玉県障害者交流センター内に障害者団体の活動と交流を深める壁一つない団体交流室があります。平成 2 年 4 月 1 日に設置され、31 年が経過しています。全国的にもあまり例がない身体・精神・知的・難病などさまざまな障害を持つ人、関係者、障害者団体の活動と交流の拠点になっています。NPO 法人埼玉県障害者協議会（県内の障害者団体 36 団体が加盟）が、埼玉県から委託を受けて管理運営をしています。現在専任の職員を置き、机・パソコン等設置して活動している専用団体が 13 団体、ポストだけ置いて活動の所在地にしている利用団体が 8 団体あります。車いすユーザーの団体、聴覚障害の団体、難病患者の団体など様々な団体がコロナ禍でも交流を深め元気に活動しています。

現在専用団体の 4 机が空席になっていますので、ぜひこの機会と一緒に活動を始めてみませんか。ご利用をお待ちしています。

入室した場合、埼玉県障害者協議会に加入して、一緒に活動していただきます

- (1) 団体交流室使用料は、毎月 4000 円です（光熱費含む）。事務机、椅子などは貸与します。
- (2) 製本ができるなど多用途な印刷機、コピー機など事務機器が所定の料金で利用できます。
- (3) 研修旅行、レクリエーション、親睦会などを開催して、交流を深めています。

< 賛助会員加入のコーナー >

私たちは、埼玉県障害者協議会の活動を応援しています。

視覚障害者にも
楽しい老後を!

もう一度青春 ひとみ園!

社会福祉法人日本失明者協会
養護盲老人ホームひとみ園

〒366-0811 埼玉県深谷市人見1665-3
電話 048-573-5222
メール hitomien5222@yahoo.co.jp

一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会

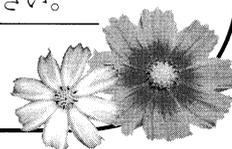
一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会は、すべての人にスポーツを楽しんでほしい。「競技」だけでなく、日常的に取り組めるスポーツ活動を応援したい。をスローガンに日々活動しています。障がいがあるなしにかかわらず、健康で元気に生活するために、スポーツの持つ様々な要素・スポーツの力が必要です。今後とも、埼玉県障害者協議会同様ご支援ご協力をお願いいたします。

< 賛助会員加入のお願い >

埼玉県障害者協議会の目的に賛同しご協力頂ける、個人及び団体を募集しております。賛助会員には年 8 回の会報の送付、各種研修会・講演会などのご案内を送付いたします。賛助会員の会費は、年一口 2,000 円です。入会をご希望の方は、下記の口座へお振り込み下さい。

< 郵便振替 > 【口座番号】 00130-9-673233

【口座名称】 特定非営利活動法人 とくていひえいりかつどうほうじん 埼玉県障害者協議会 さいたまけんしょうがいしやきょうぎかい



編集後記

帰り道の夜風が涼しく、夏の終わりを肌で感じています。皆さんは秋の予定は決まりましたか？
私は旅行に行けるいつかの為に 1 駅ウォーキングを始めました。久々の旅行で体力が無いのはもったいないですからね。「人生は逆算」。皆さんも予定の為に準備を始めてみましょう。
(石橋)